

## 内斜視、弱視の男児における小児鍼経過報告

関東支部 大師流小児はりの会関東 菅野針灸院  
菅 野 正

**【目的】** 左眼の内斜視、弱視(左 0.4・右 1.0)が小児鍼により改善した一症例を報告する。

**【症例】** 男児(4歳7ヵ月)、父、母、姉の4人家族である。

**【主訴】** 2011年10月11日に医師から、長期間かけて徐々に今の左斜視、弱視の症状があると言われる。早くその症状を治してあげたいという思いで当院に来院した。

### 【治療・経過】

**初診**の2011年10月15日は落ち着きがなく、正座させると両肩を上げ首を右に側屈し、肘をピーンと伸ばし腕を突っ張った姿勢をとり、右頸部(C3-7)、肩部、肩甲骨内側部にくすんだ皮膚の過緊張が見られた。腹部打診をすると弾力はあるが周波数の高い緊張音で左下腹部では硬く鈍い音が聞こえた。治療部位は仰臥位で腹部、伏臥位で頸部、肩部、肩甲骨内側部、臀部、下肢、手の後谿とした。使用した鍼は大師流小児鍼である。帰宅後、便通が30分おきに3回あり、夜いつもより寝れたようである。

**2診目**(10/18)は治療時間を6分としたが、緊張感がとれ治療中4分ほどで寝てしまった。

**3診目**(10/21)も落ち着いており、正座時での頸部右側屈、肩上げが50%改善した。20日から医師の指示により矯正メガネを1日2時間かけることになった。

**9診目**(11/11)正座時の姿勢は90%改善し、右頸部、肩部、肩甲骨内側のくすんだ皮膚の過緊張度は70%回復した。腹部打診では緊張音が取れポンポンとした鼓音に変化し、左下腹部の硬さは70%回復した。この日、医師より斜視が良くなっているといわれ、左眼の視力が上がった(左 0.7・右 0.8)。

**22診目**(12/23)の腹部打診では左下腹部も鼓音に変化した。背部全体のくすみが取れ、弾力のある健康な皮膚になった。前日の医師の診断の結果、内斜視の症状が軽くなり、再び視力の回復(左 0.8・右 1.2)が見られた。

**【考察・結語】** 皮膚の過緊張部位(特に右側)を治療したことで正座の姿勢もよくなり左右のバランスが取れ、視力と眼筋を支配する動眼神経の働きが回復し、眼筋のマヒ状態を回復したと考えられる。